

ここがポイント！授業づくり

今回のテーマ：「単元設計をする」

先生方は日々の授業をする際に、次の日の授業を教科書や指導書で確認して進めているということはありませんか。今回は「単元設計をする」というテーマです。「単元設計」とは単元で付けたい力を明確にした上で、見通しをもって単元全体の指導計画を立てることです。

学習指導要領においても、「単元や題材など内容のまとまりを見通して、その中ではぐくむ資質・能力の育成に向けて、『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善を進めること」と示されています。

つまり、児童生徒に資質・能力を身に付けさせるためには、1単位時間ではなく、単元を意識する必要があります。



単元設計がなぜ必要なのですか？普通の授業で、単元指導計画を立てるのは時間が足りなくて…。

児童生徒に3つの資質・能力「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」を身に付けさせることが求められています。これらの力は1時間授業をしたから身に付くというのではなく、単元をとおしていろいろな学びを積み重ねていくことで身に付いていきます。

単元全体で、3つの資質・能力をバランスよくはぐくむためには「どの時間に」「どんな内容を」「どんな方法で」指導するのか計画を立てておく必要があるのです。



単元設計をすることは、設計図を考えることと同じです。例えば、工作をするときには、こんなものを作りたいと全体像を考え、それから、こんな材料を、こんな手順で作っていけばできるはずだと思えます。

授業でも同じです。全体像、つまり単元全体で付けたい力を明確にし、全体の見通しを立てて、それから、材料や手順に当たる1時間の授業の内容や方法、指導する順番を考えていかないと、最終目標である単元目標を達成することにはつながりにくいのです。



京都府丹後教育局
学校教育担当
令和2年7月発行
授業力UP研修2

この資料は、教職経験1～6年目（ステージ1）の先生方を主な対象として作成しています。他のステージの先生方にとっても、御自身の日々の授業実践を振り返っていただくきっかけとなれば幸いです。

単元設計の手順

① 単元目標を明確にする。

児童生徒にどんな力を付けるのかを明確にします。単元が終わったときの児童生徒の姿として具体化しましょう。

② 単元を学習する上で必要な力を確認する。

単元の学習の前提となる知識や技能を全員が獲得しているか確認しましょう。レディネス・テストや復習プリントをするなどの方法があります。

獲得できていない児童生徒がいるときには、単元に入る前に個別指導をするなどして、できる限りスタートラインをそろえます。全員が学習に向かえるようにしましょう。



③ 毎時間の目標を設定する。

児童生徒に単元で付けたい力を身に付けさせるためには、どんな目標を、どんな順番で達成していけばよいのかを考えます。最終の単元目標の達成に向けて、1段階ずつステップを登っていくように毎時間の目標を設定し、それを確実に達成していくことが大切です。

④ 指導計画を考える。

指導計画は、児童生徒の実態を踏まえて作ります。だから、実態を分かっている先生が作る必要があるのです。教科書や指導書の配当時間はあくまで参考とするものです。例えば、話し合い活動に時間をかけたいのなら、他の時間を少し早めに進めるなど、全体を見ながら計画を立てることが大切です。



⑤ 評価の方法を考える。

評価をどのタイミングで、どんな方法で行うかは、指導する前に考えておきます。単元の指導の前に、総括テストを作るのもよい方法です。